

# 平成29年度 獨協埼玉高等学校 自己評価シート

目指す学校像	多様かつハイレベルな進路目標をめざす集団作りと併せ、豊かな環境のもと、自ら考え、判断できる若者を育てる。
--------	--

重点目標	1. 能動的学習をなおいっそう取り入れ、自ら考え判断できる若者を育てる。 2. 多様な進路目標の実現に向けて努力する。 3. 登下校時の安全とマナーの向上を図る。 4. 学校生活の安全性と快適性を向上させるため、安心・安全な学校作りを進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (3月30日 現在)		実施日 平成30年5月12日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自ら考え判断できる若者を育てるためには、積極的に学び、考え、表現する活動を十分に行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業の質の向上をはかり、生徒の興味・関心を育む。</li> <li>○ 能動的・主体的に学び表現する態度を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業の改善を目指して授業アンケートを実施する。</li> <li>○ 発表の機会を積極的に取り入れる。学習者参加型の能動的学習を適切に授業に取り入れる工夫をする。</li> <li>○ 獨協コースの教育内容を学校内外に効果的に広報する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業アンケートを実施したか。</li> <li>○ 能動的学習について教科や題材に応じた効果的な方法を探求したか。</li> <li>○ 発表の機会を積極的に取り入れたか。</li> <li>○ 獨協コースの広報活動を積極的に行ったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業アンケートを2学期末に実施した。</li> <li>○ 夏の教研集会で、大学通信の安田氏による大学入試改革の講演を実施した。</li> <li>○ 獨協コース論文一覧を作成しホームページに概要を掲載し、優秀論文集を作成した。</li> </ul>	B+	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発表の機会については、行事および一部の授業では充実し始めているが、全体的取り組みとなるよう教科毎の更なる工夫・改善が必要である。</li> <li>○ 獨協コースの学びのPRを早期学年に行う必要がある。併せて大学からの講演会を実施し、学びの本質を考える機会を設ける必要がある。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ より質の高い学習と継続的学習を推し進め、進学実績を求める生徒の期待に応える必要がある。</li> <li>○ 情報活用能力の向上を目指す必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自発的な学習を促す。</li> <li>○ 継続的学習につながる工夫をする。</li> <li>○ 高度かつ先進的学習につながる工夫を施す。</li> <li>○ 教科横断的な学習支援体制を整え、かつ教科の連携を図る。</li> <li>○ ICTを活用した教育実践に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自発的な学習集団を育てるため自習室の拡張、自習スペースの拡充を図る。</li> <li>○ 継続的学習につながる環境整備をする。</li> <li>○ 先進英語プログラムを実践する。</li> <li>○ 難関大学の入試に対応した授業や講習を積極的に行う。</li> <li>○ 他教科で扱う内容等にふれ、より発展的・総合的に考える機会を提供する。</li> <li>○ 入試対応等教科横断的内容の情報共有の場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自習室を拡張したか。自習スペースを拡大充実させたか。</li> <li>○ 継続的学習につながる環境整備に対処したか。</li> <li>○ 難関大学の入試に対応した授業や講習を行ったか。</li> <li>○ 発展的学習の機会の提供、およびそれへの課題等を促したか。</li> <li>○ 教科横断的な情報共有の場を設けたか。</li> <li>○ ICTの活用を検討したか。また、情報活用能力の向上を目指した教育実践を行ったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ サテネット室の利用変更を検討し、Wi-Fi環境を整備し、スマートホン・タブレット等を用いる事のできる多目的教室への変更を行った。</li> <li>○ 3年の夏期講習や秋期講習において、難関上位大学と中堅大学等のグレード別対策講習を実施した。</li> <li>○ 夏に先進英語プログラムを実施した。</li> <li>○ 複数の教科でICTを活用した教育実践が拡充した。</li> </ul>	B-	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科横断の情報共有の場の設定および奨励については不十分である。次年度以降は教育課程を見据え、3年間の有機的な学びの場の提供をより積極的にはかる必要がある。</li> <li>○ 先進英語プログラムの拡充をはかりつつ、それぞれの教科で発展的・能動的な学習の場を提供し続ける必要がある。</li> <li>○ 各教科においてより一層ICTを活用した教育実践が行えるよう、教科内校内研修および学外研修を奨励し、積極的に取り組めるよう環境整備に努める必要がある。</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 登下校時の安全とマナーの向上が求められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 登下校時の安全とマナーの向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ バスの乗車指導、駅周辺での指導を継続する。</li> <li>○ 試験期間中の通学路での下校指導を継続する。</li> <li>○ バスや電車内等、公共の場でのマナー向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ バスの乗車指導、駅周辺での指導を継続したか。</li> <li>○ 試験期間中の通学路での下校指導を継続したか。</li> <li>○ バスや電車内のマナーにかかわる苦情はなくなったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ バスの乗車指導、駅周辺での指導を継続した。</li> <li>○ 試験期間中の通学路での下校指導を継続した。</li> <li>○ バスや電車内マナーの苦情は減少傾向にあるが皆無ではない。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 登下校での安全とマナーは継続指導を行う必要がある。</li> <li>○ 電車内を中心としたマナーについて考えさせる機会を与えたい。</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が安全に生活できるような環境作りをさらに推進する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大地震に備えた態勢づくり</li> <li>○ AED講習</li> <li>○ 携帯マナー教室</li> <li>○ 不審者侵入対応マニュアル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地震発生に備え、食糧備蓄を維持する。</li> <li>○ 地震に備えた避難訓練を実施する。</li> <li>○ AED講習会を開催する。</li> <li>○ 携帯マナー教室を実施し、SNSなどの安全な利用法を理解させる。</li> <li>○ 不審者侵入に備えた態勢を確立する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全生徒・全教職員に対し3日分の食料・飲料水の備蓄を維持したか。</li> <li>○ 避難訓練を実施したか。</li> <li>○ 中2と高2にAED講習会を開催したか。</li> <li>○ 中1と高1を対象に携帯マナー教室を実施したか。</li> <li>○ 不審者対応マニュアルを周知したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3日分の食料・飲料水の備蓄を維持した。</li> <li>○ 5月に避難訓練を実施した。</li> <li>○ 中2と高2にAED講習会を開催した。</li> <li>○ 中1と高1を対象に携帯マナー教室を実施した。</li> <li>○ 不審者対応マニュアルに基づき来校者を把握している。</li> <li>○ 学校周辺の不審者へのパトロールを行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後も、備蓄は継続し、避難訓練・AED講習・携帯マナー教室は毎年実施する必要がある。</li> <li>○ SNSを用いたトラブルを未然に防ぐための対策と対処法の共有を一層はかる必要がある。</li> <li>○ 部活動中の事故や苦情に対し、活動中の安全対策とマナーを徹底したい。</li> </ul>	

学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業アンケート結果を踏まえた教科としての到達点の共有および、授業改善計画(特に家庭学習量を増やす)等を明示する必要があるのではないか。</li> <li>○ 獨協コースの狙いと魅力については周知されていると認識している。今後は獨協大学との関わりとその入学者数および他大学への進学者数と学校の狙い等、獨協埼玉ならではの教育スタンス(人財育成)を明確にし、広くPRする必要があろう。</li> <li>○ 近隣の公立高校もICT化に積極的に取り組んでいる状況にある。学校現場においてもICT技術を精査し、教育効果上必要と判断できれば積極的に導入および環境整備を進めてほしい。併せて、校内・校外研修を奨励し共有化を進めてほしい。</li> <li>○ 登下校時のマナーおよび公共の場でのマナーの向上については学校でも継続指導をお願いしたい。併せて、保護者への協力も必要であらう。家庭でのしつけ等啓発も必要と考える。</li> <li>○ 携帯・スマホの使用とSNSトラブルを未然に防ぐ手立てについての指導は継続していただきたい。また、明確なルールの徹底と併せて家庭での協力も得られるよう工夫すべきである。</li> <li>○ 安全で安心して生活できる環境づくりに向けて、改善点を洗い出し環境整備に向けて努力して欲しい。</li> </ul>

